

親潮舎

高知工科大学 社会システム工学科
景観デザイン研究室
1101007 宮地ひかり

1. 背景／目的

本設計は、仁井田地区の工場跡地を利用して集合住宅を提案するものである。

浦戸湾の南東に位置するこの敷地の対岸には、高度経済成長期の昭和40年前後に埋め立てられた約60haの埋め立て地が広がり、工業用地、交通機能用地、港湾関連用地等の関連工場が立ち並んでいる。海に面した敷地は高さ5mの堤防で囲まれており、敷地からは海が望めない。周辺住民の散策、釣り利用といった海へのアプローチもみられず閑散としており、平一面な堤防がそれに拍車をかけている。

浦戸湾の水際を囲む工場群の一つであったこの場を住宅に変えることで、人が海に近づく機会が得られると考える。

平一面の堤防で囲まれ、水際を工業用地が占める浦戸湾の一面を、変化のある集合住宅に変えること、それによってそこに住む人たちが海辺の活気を新たにつくることを目的とする。

2. 設計指針

前述の課題をふまえて、設計は以下の点に留意した。

- ・親水空間の演出
- ・緑の創出
- ・平一面の堤防の改善
- ・陸側への海のアピール

2-1 親水空間の演出／陸側への海のアピール

水面に沿って集合住宅を計画し、住人の生活を海に近づける。全体計画で住宅計画地のみを残して敷地を掘削し、陸側へ小さな海をつくり道路への海存在を強調させる。

2-2 緑の創出／平一面の堤防の改善

集合住宅の屋上はひとつなぎにして緑化する。異なるプランを組み合わせ、連続する建物に凹凸をつくり変化をつけ、隣り合う住居には緑化したバルコニーを設けることにより、海側、陸側の両方から豊かな緑と変化のある建物が見えるようにする。



図1 敷地周辺図



図2 堤防に囲まれた敷地



図3 工場の並ぶ埋め立て地

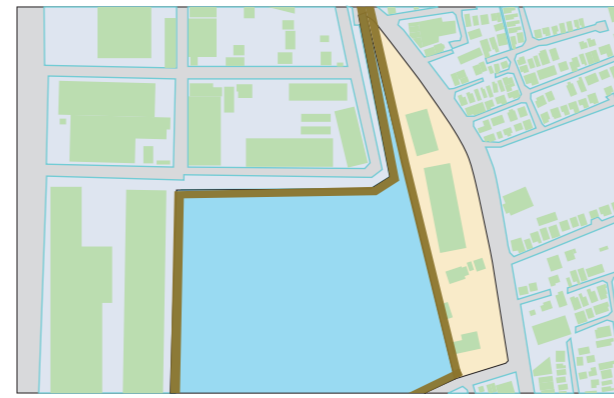


図4 現況ダイアグラム



図5 計画面ダイアグラム

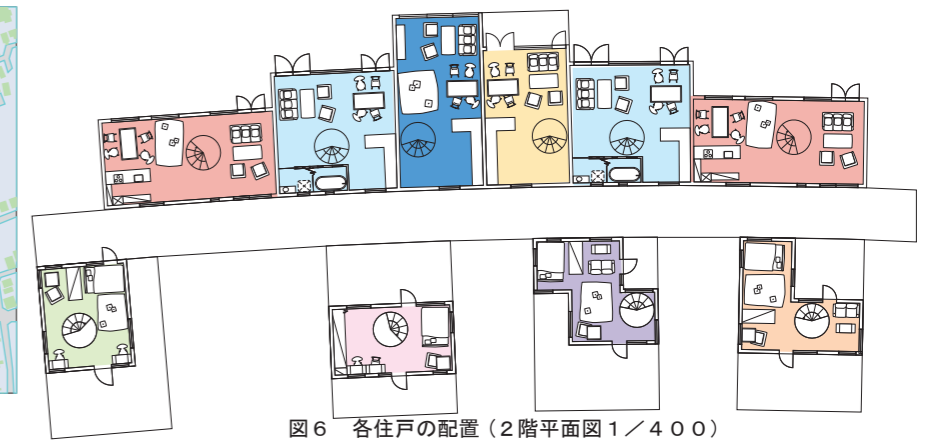


図6 各住戸の配置 (2階平面図1/400)

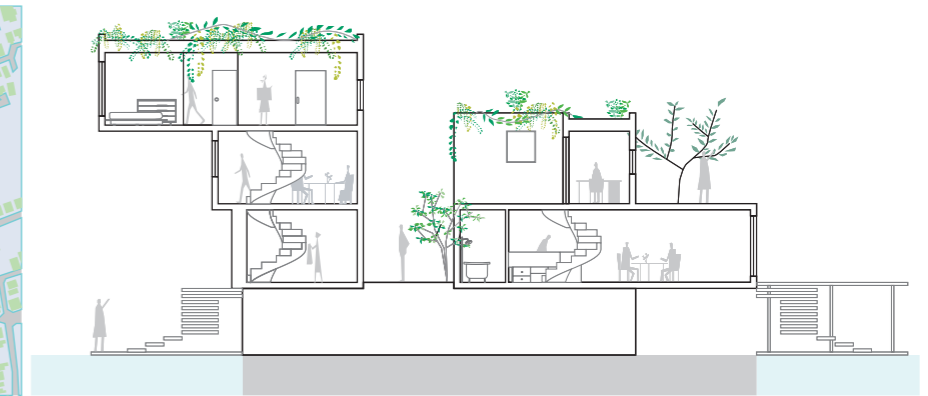


図7 住宅断面図 1/250

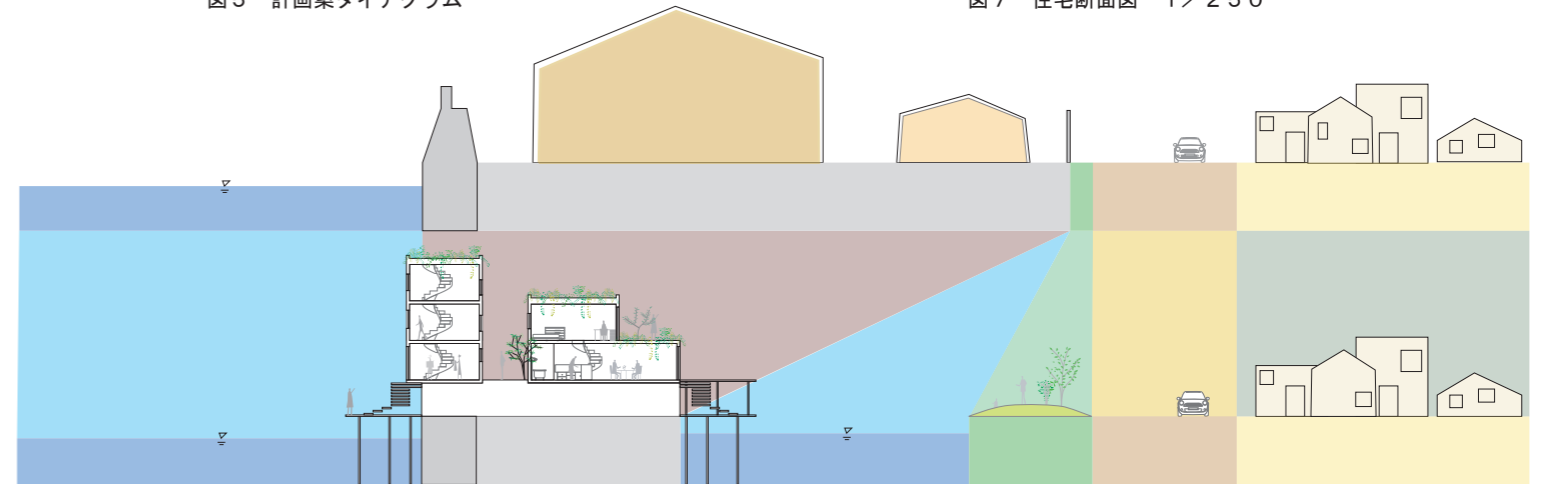


図8 全体断面図

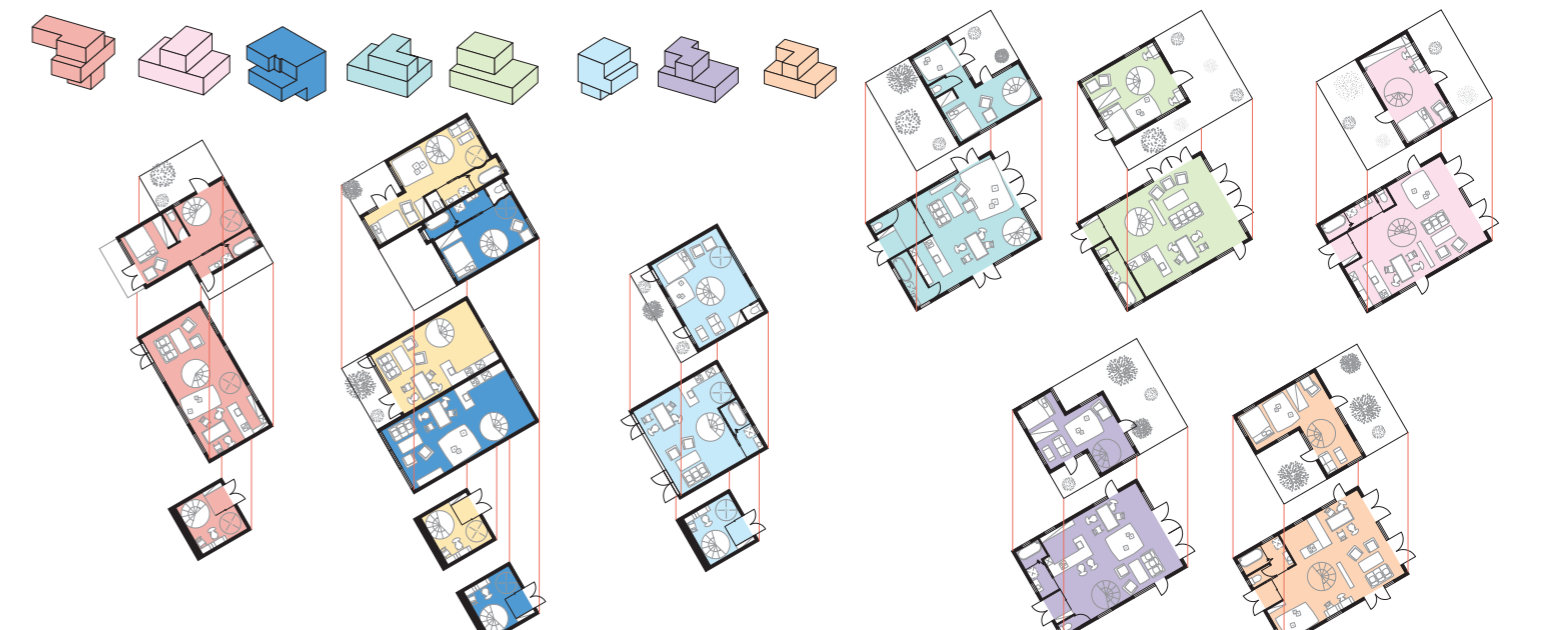
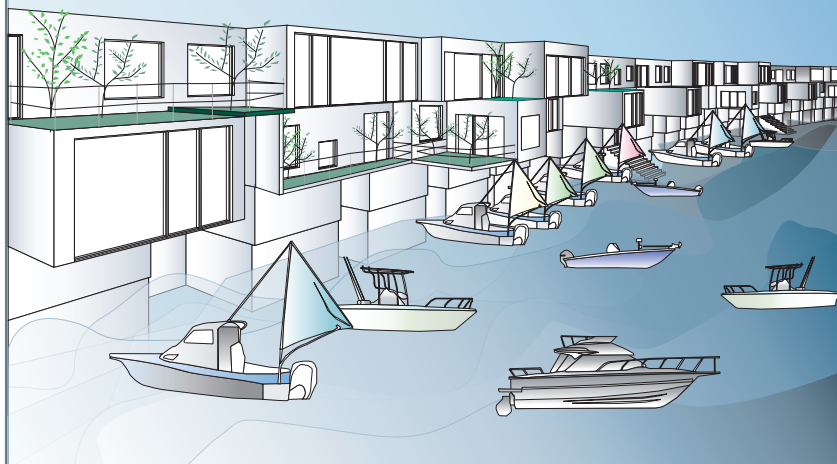


図9 住戸一覧

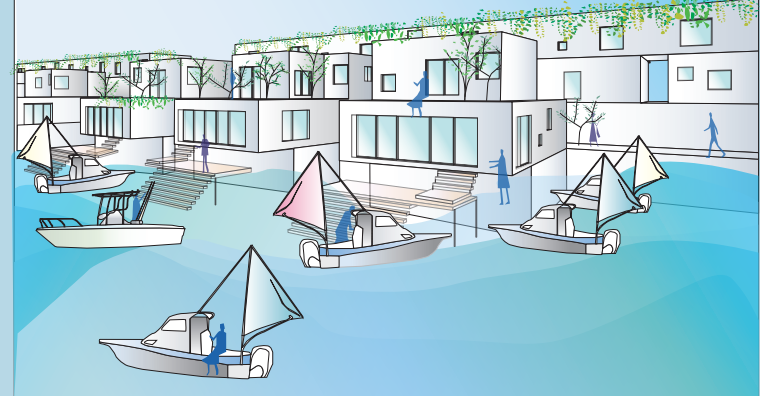
●西側集合住宅

3種類のプランを組み合わせ、凹凸のある連続した集合住宅。
共用棟から自家用ヨットに乗ることが出来る。



●東側の住宅

5種類の少しずつ形の違う住宅が10棟並ぶ。各戸ともリビングから直接海にアクセス出来る。



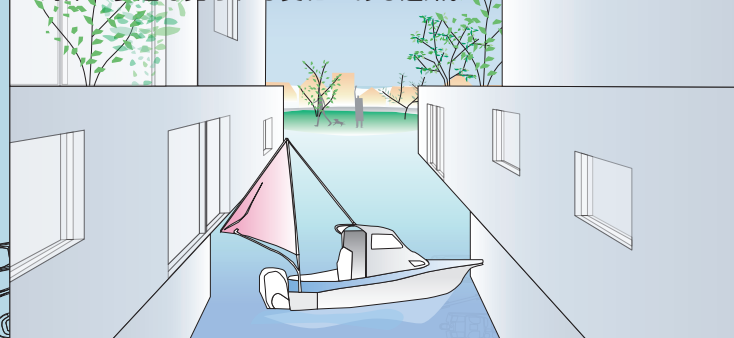
●凹凸の続く集合住宅

平坦な堤防から変化のある水辺空間へ。



●通路から見える住戸の隙間

通路を歩くと様々な海の活動がかいま見られる。
対岸の歩道も見られる変化のある通路。



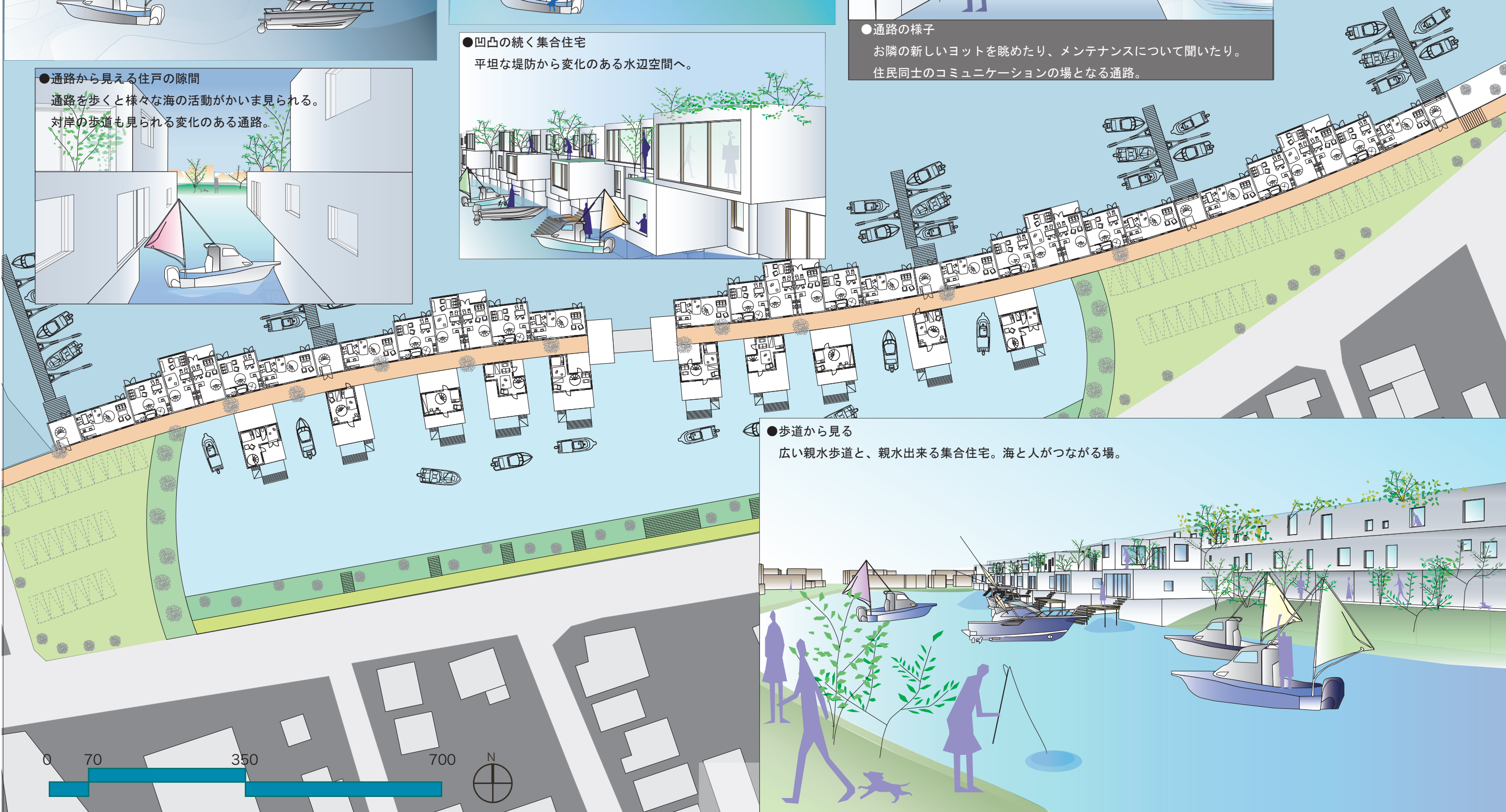
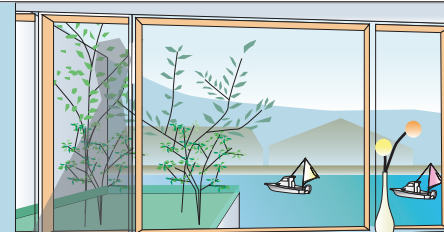
●通路の様子

お隣の新しいヨットを眺めたり、メンテナンスについて聞いたり。
住民同士のコミュニケーションの場となる通路。



●住戸から海を見る

内海の静かな水面を望める住居。



●歩道から見る

広い親水歩道と、親水出来る集合住宅。海と人がつながる場。

